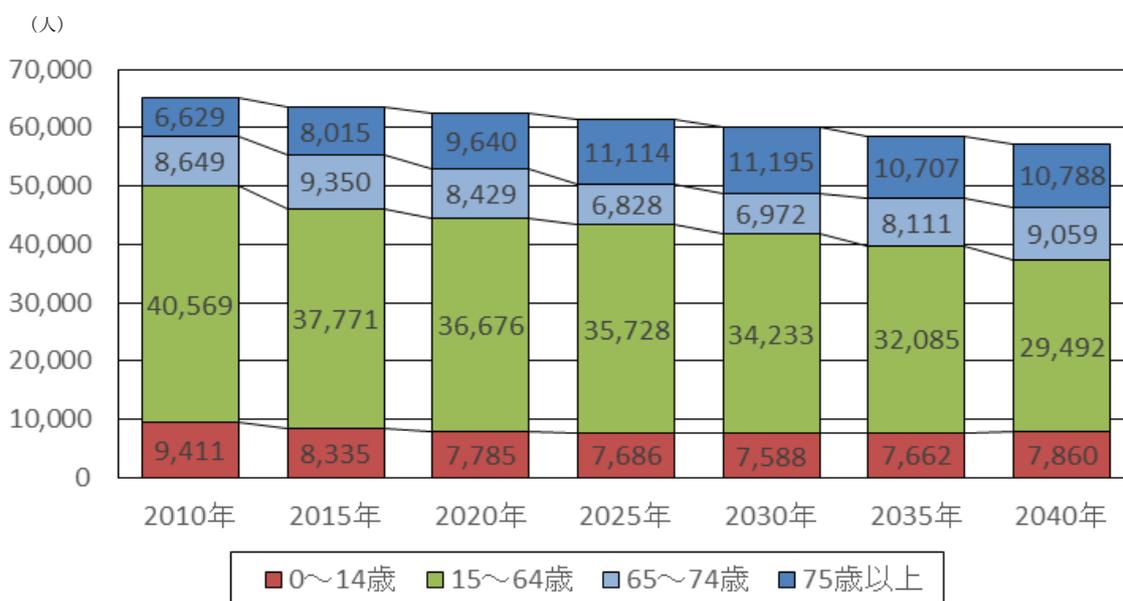


## 第3章 高齢者の現状

### 1 人口と高齢化

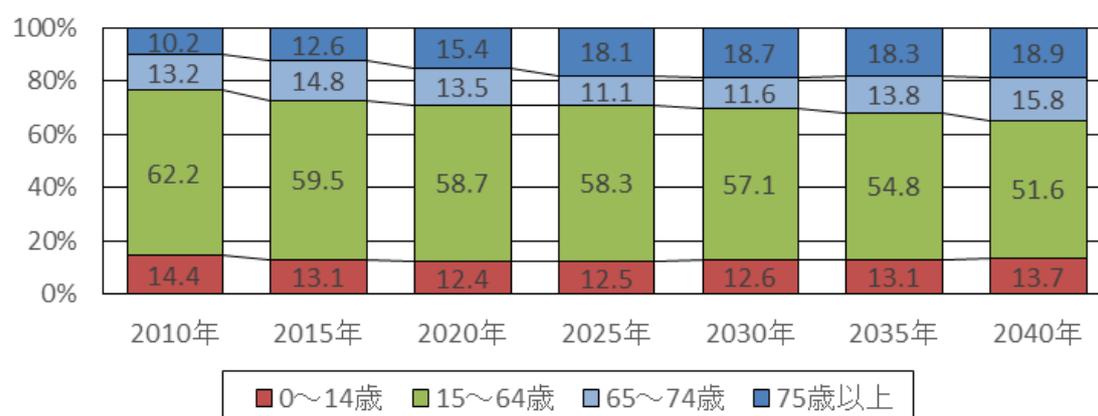
- ・人口は年々減少しますが、高齢者人口は概ね増加傾向です。
- ・人口に伴い高齢者の占める割合が高くなり、特に後期高齢者（75歳以上）の割合が高くなります。

#### ▶年齢区別の人口



参考 津島市人口ビジョンにおける独自推計（補正）をグラフ化  
(2015年以降は推計)

#### ▶年齢区別の人口割合

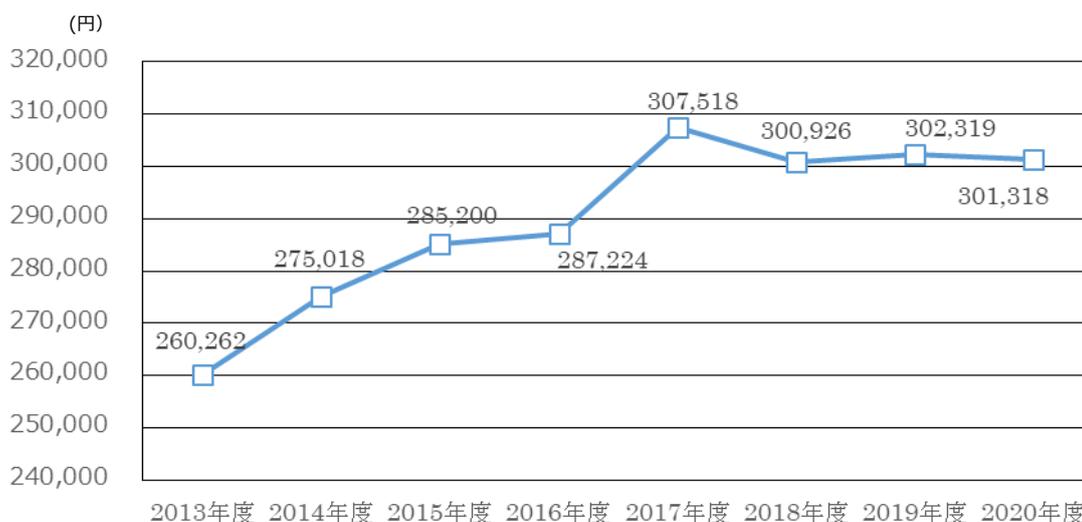


参考 津島市人口ビジョンにおける独自推計（補正）をグラフ化  
(2015年以降は推計)

## 2 医療

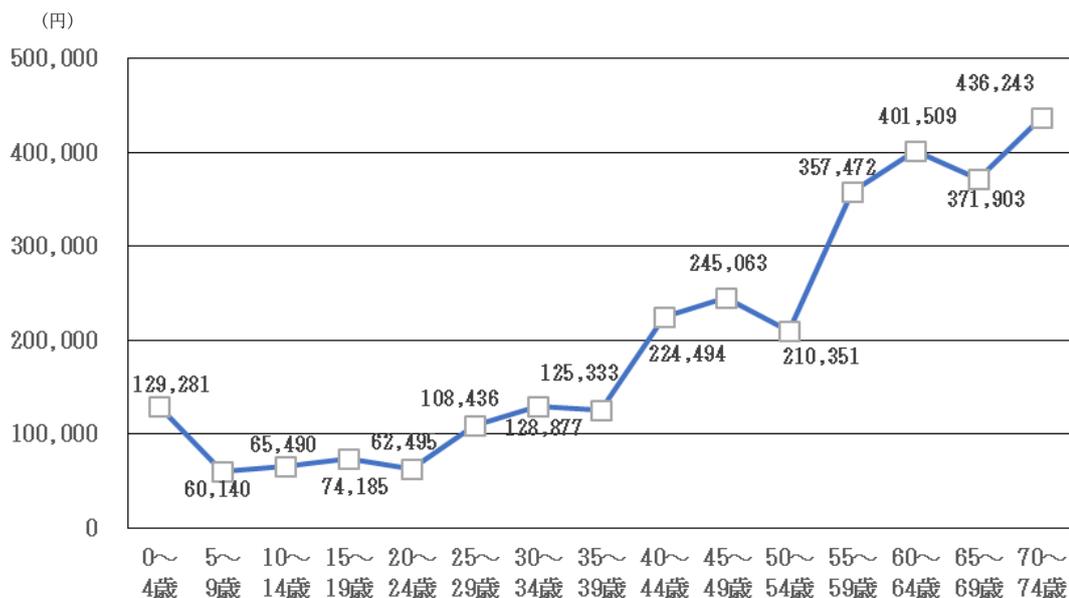
- 生活習慣病は、適度な運動やバランスの取れた食生活などによって予防することができますが、津島市の国民健康保険の加入者の場合、1人当たり医療費が増加傾向です。
- 年齢別に見ると、年齢が高くなるにつれて生活習慣病に係る医療費が増加する傾向があります。

### ▶生活習慣病に係る 国民健康保険被保険者1人当たり年間医療費の推移



参考 保険年金課資料よりグラフ化

### ▶生活習慣病に係る 年代別国民健康保険被保険者1人当たり年間医療費 (入院・入院外)

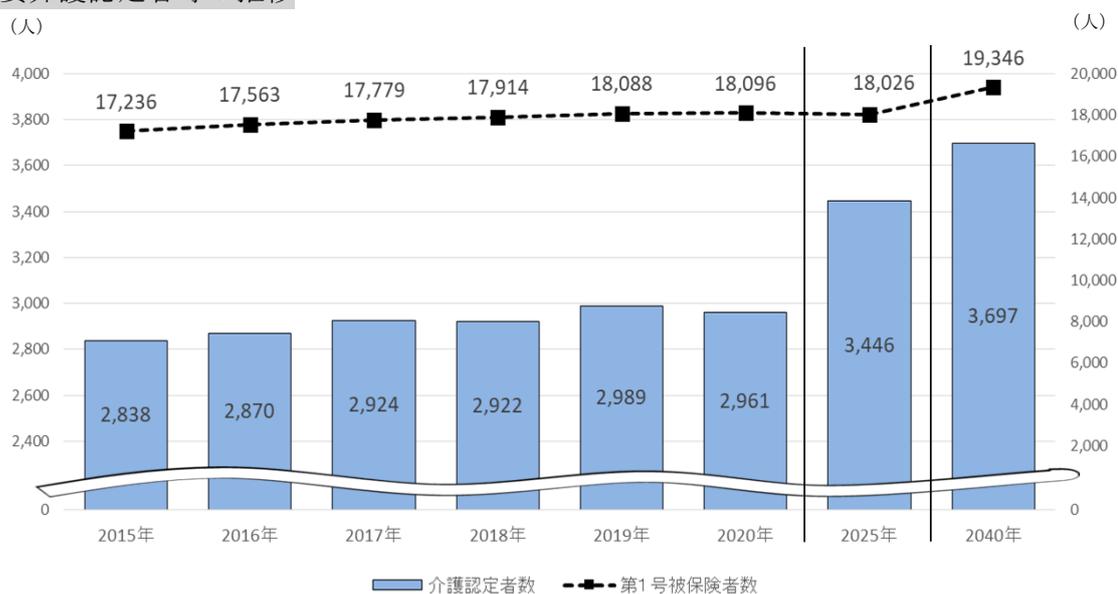


参考 第2期津島市データヘルス計画よりグラフ化 (2020年度)

### 3 要介護認定

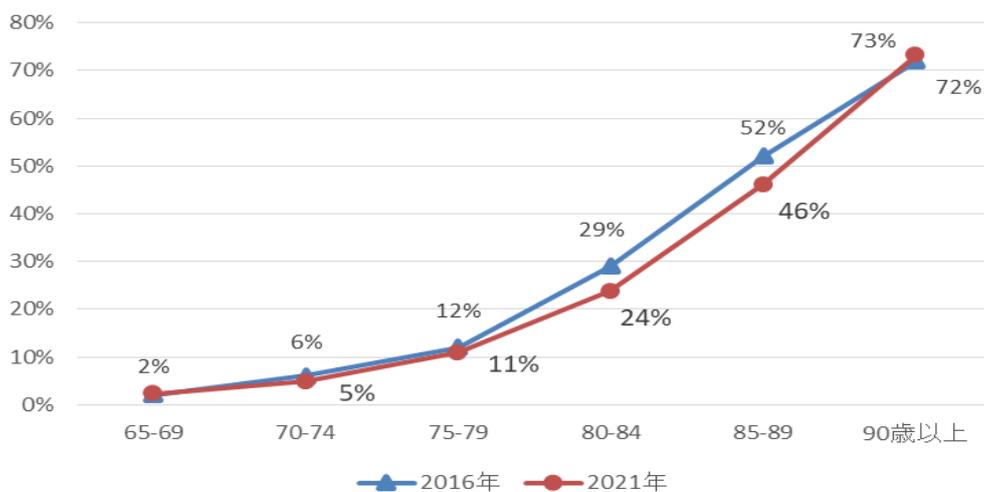
- ・認定者数は2020年からの5年間で急激な増加が見込まれ、その後高齢者人口の増加とともに認定者数も増加することが見込まれます。
- ・介護保険料を負担する65歳以上の第1号被保険者数は、2025年までの5年間は横ばいに推移し、その後増加に転じ、2040年には19,346人と見込まれます。
- ・年齢階層別の認定率を2016年と2021年を比較すると、全体的に低下傾向です。

#### ▶要介護認定者等の推移



参考 第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画による推計をグラフ化（2019年までは実績）

#### ▶年齢階層別の要支援・要介護認定率



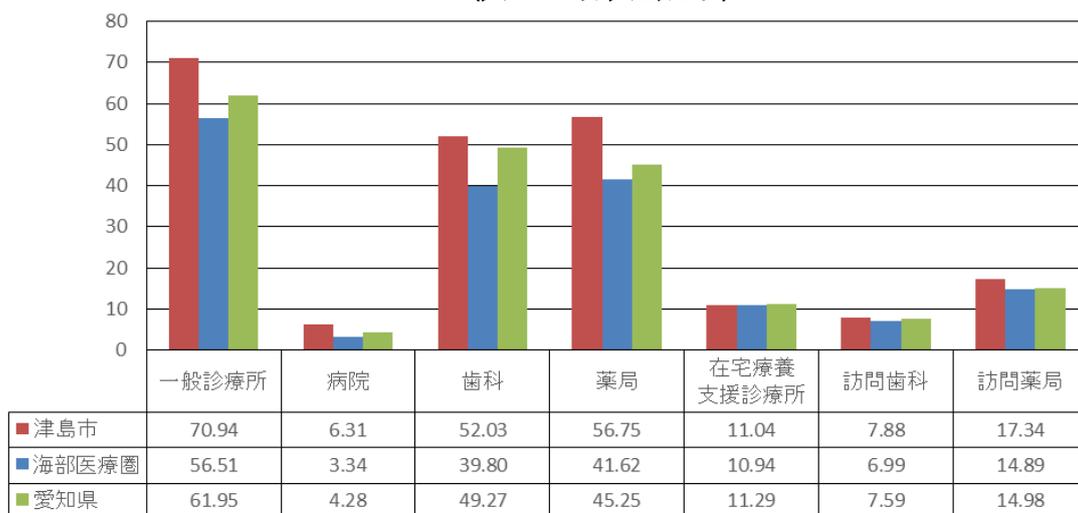
参考 厚生労働省 介護保険事業状況報告（暫定）2016年3月分及び2021年3月分  
及び 企画政策課統計資料

## 4 医療資源と介護資源

- ・医療機関は、在宅療養支援診療所を除き、海部医療圏平均、愛知県平均のいずれも上回っており、充実しています。
- ・介護事業所も充実しています。ただし、入所型介護施設が多いことは、自宅での生活より施設への依存が高いことの遠因となっている可能性があります。

### ▶医療機関

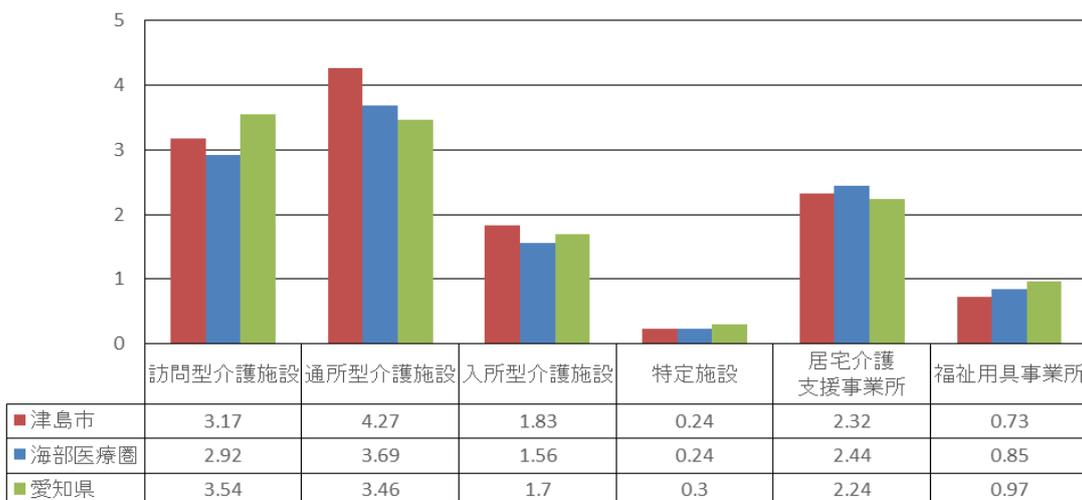
(人口 10 万人当たり)



参考 日本医師会「地域医療情報システム」の情報をグラフ化  
医療機関数は 2020 年 11 月の地域内医療機関情報の集計値  
人口 10 万当たりは 2015 年の国勢調査総人口で計算

### ▶介護事業所数

(75 歳以上 1 千人当たり)

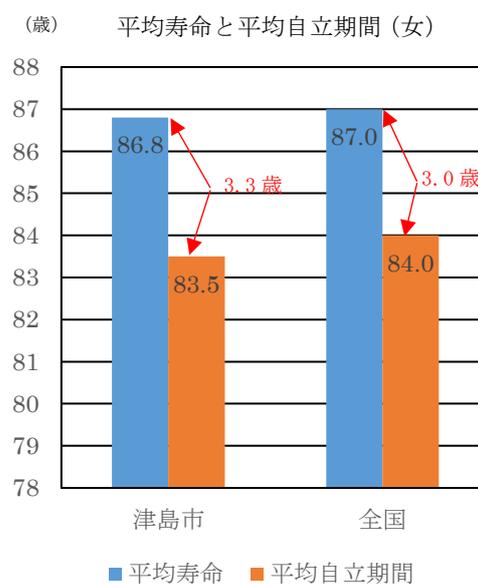
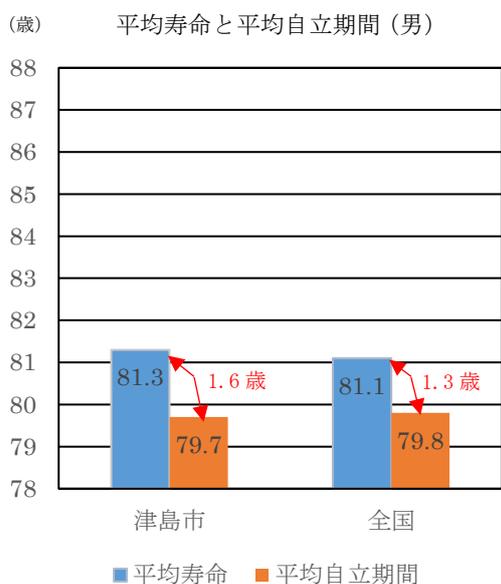


参考 日本医師会「地域医療情報システム」の情報をグラフ化  
介護事業所数は、2020 年 9 月の地域内介護施設情報の集計値  
75 歳以上 1 千人当たりは 2015 年国勢調査総人口で計算

## 5 予防

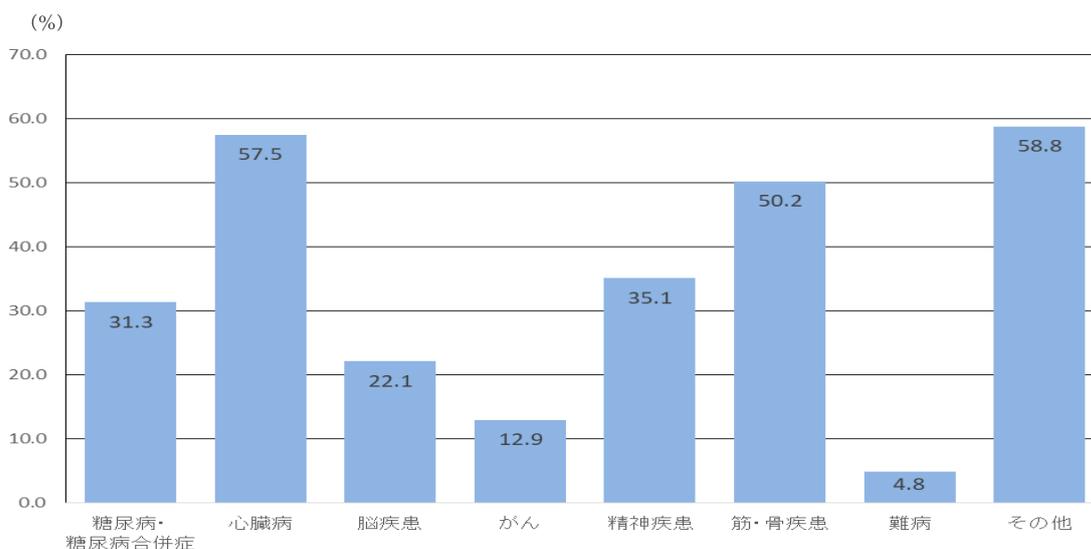
- ・津島市の平均寿命と平均自立期間の差は、男性で1.6歳、女性で3.3歳であり、全国平均より男女とも0.3歳長くなっています。
- ・要介護認定を受けた人は、何らかの疾病を有する場合が多く、介護と医療の両方を必要とする可能性が高いことがわかります。生活習慣病予防、認知症予防、フレイル予防への取組が必要です。

### ▶平均寿命と平均自立期間



参考 国保データベースシステムよりグラフ化 (2020年度)

### ▶要介護認定者の疾病の有病率

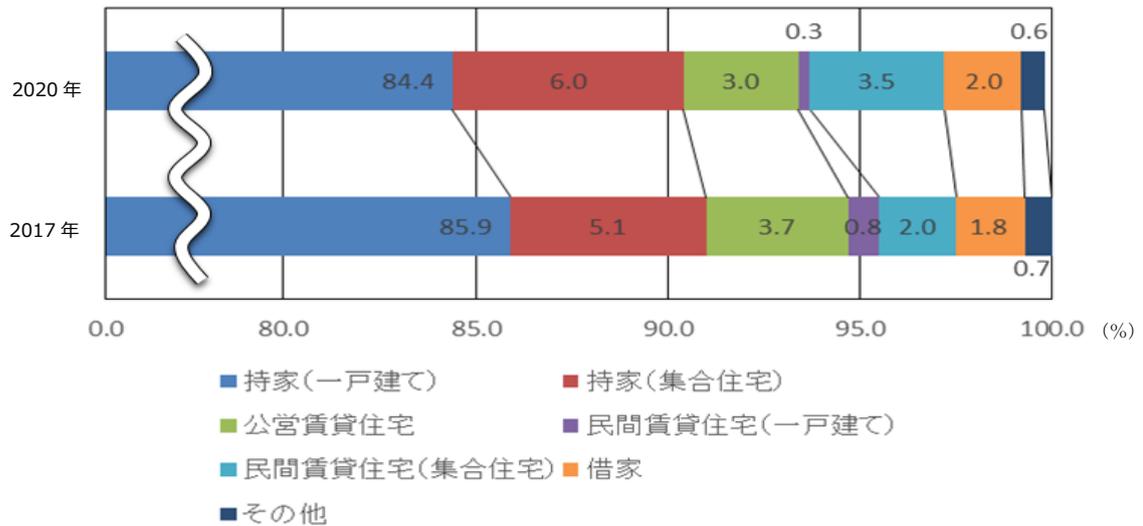


参考 国保データベースシステムよりグラフ化 (2020年度)

## 6 住まい

- ・2017年、2020年のアンケート調査において、持家の比率は90%を超えています。

### ▶自宅の状況

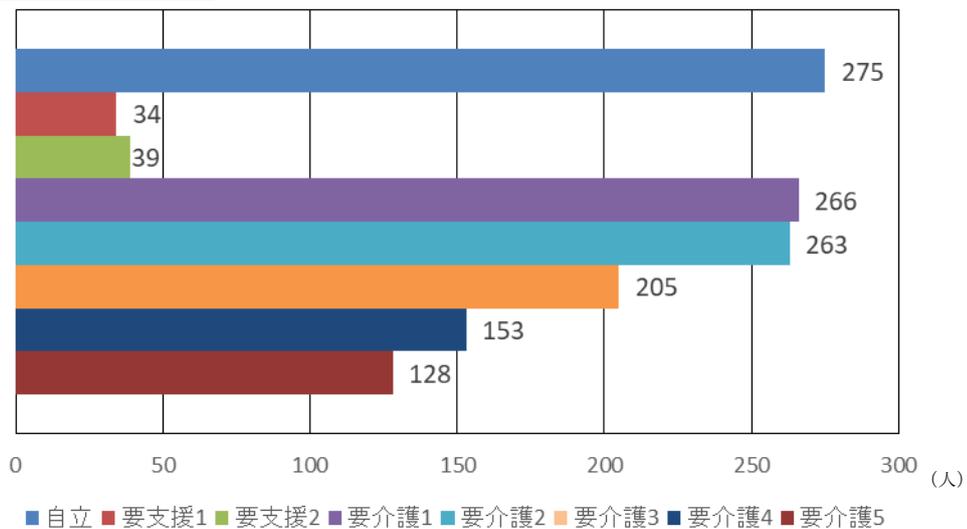


参考 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（2017年及び2019年実施）よりグラフ化

## 7 認知症

- ・要介護認定において自立でも認知症の人が多くいることがわかります。
- ・若い頃から発症のリスクの予防と、早期発見・早期対応による進行抑制が必要です。

### ▶津島市の認知症高齢者数

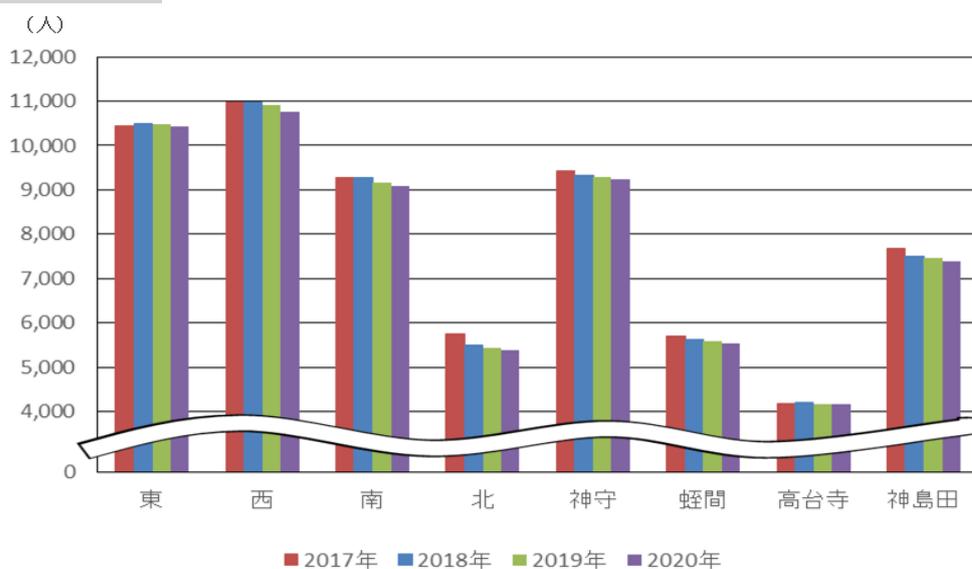


参考 国保データベースシステムよりグラフ化（2020年度）

## 8 地区の状況

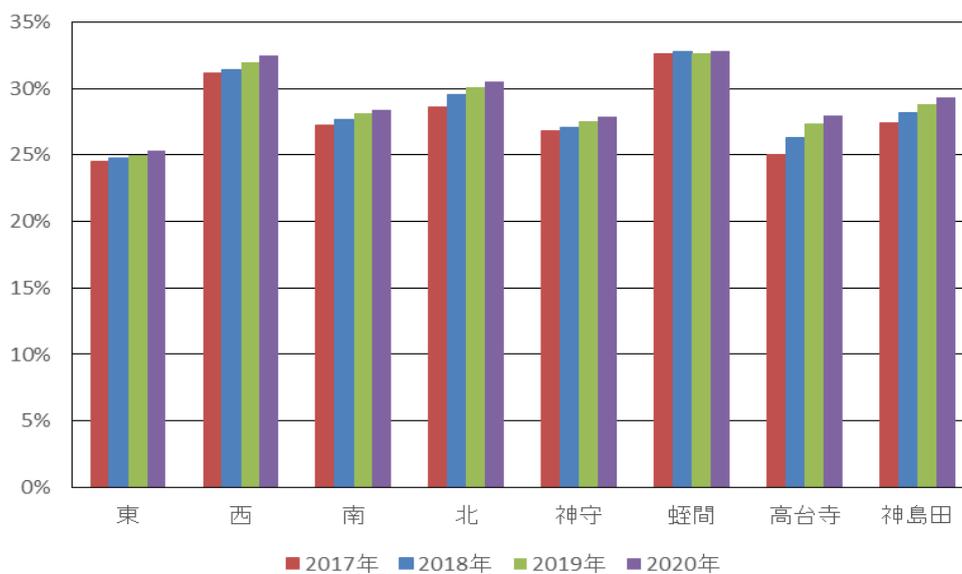
- どの校区も年々人口が減少しています。
- どの校区も年々高齢化率が進んでいますが、蛭間、西校区の高齢化率が高い状況です。
- 西校区の人口は蛭間校区の人口の約2倍。高齢化率は同程度でも支え手の絶対数が異なるなど、地区の状況に大きな違いが見られます。

### ▶校区別人口



参考 企画政策課資料よりグラフ化

### ▶校区別高齢化率



参考 企画政策課資料よりグラフ化

- ・鉄道は、市の西部及び北部を名古屋鉄道が通るほか、市南部に JR 関西線永和駅が隣接するのみです。
- ・路線バスは、名鉄バスが市の東西に延びる幹線道路にあるのみです。
- ・これらの交通機関で不足する地域について、市のふれあいバス 4 路線があります。
- ・エリアとしてこれらでカバーされていますが、高齢者にとって不可欠な買い物や病院、診療所での受診がしやすいかについて検討が必要です。

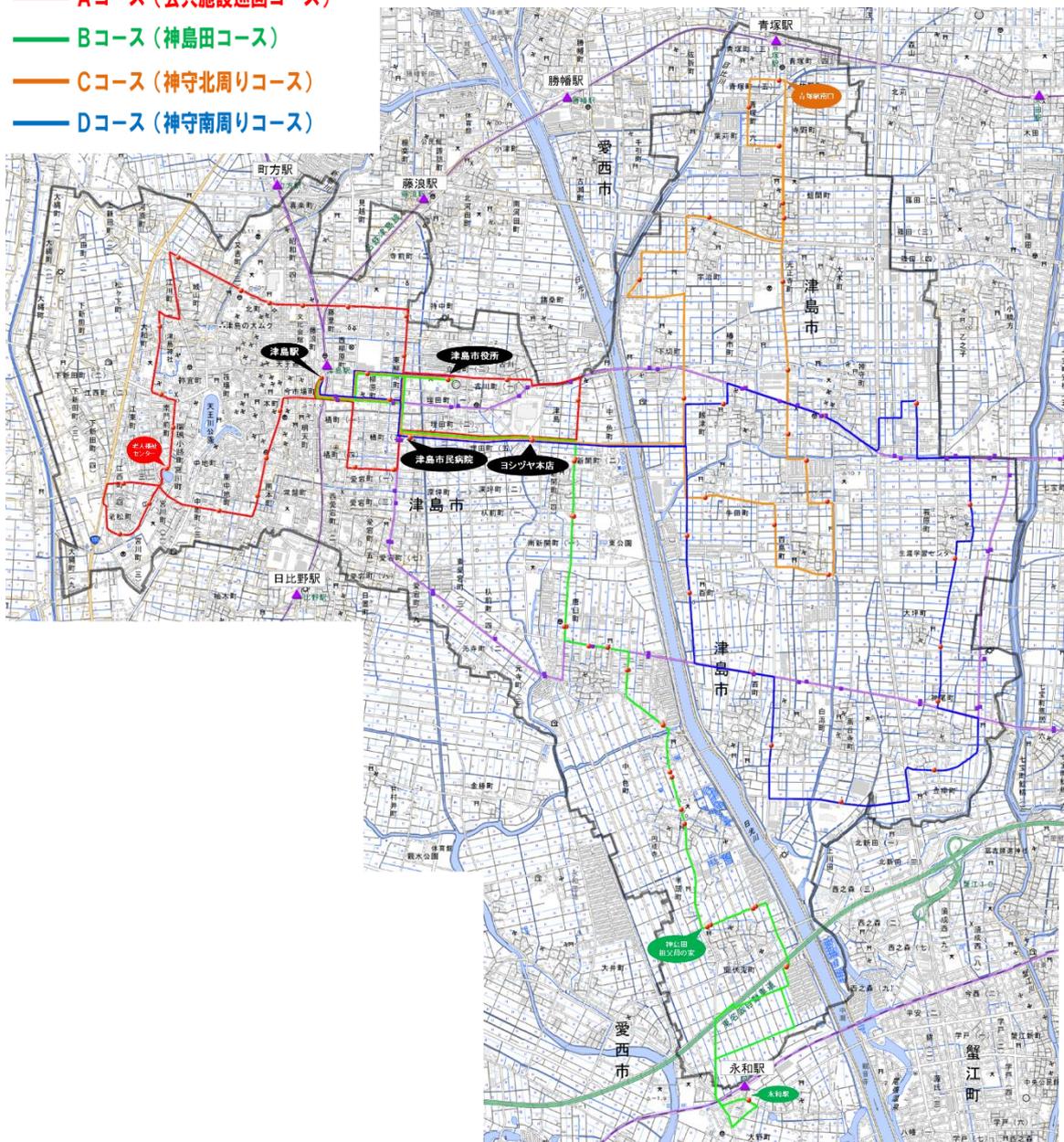
▶公共交通機関

— Aコース（公共施設巡回コース）

— Bコース（神島田コース）

— Cコース（神守北周リコース）

— Dコース（神守南周リコース）



ふれあいバス（Aコース～Dコース）は、2020年10月改正